

答え合わせ・解説

問1	答え 2 オホーツク海	北海道の北東側に位置するこの海域は、シベリアのアムール川から流れ込む淡水の影響で塩分濃度が低くなり、冬の厳しい寒さによって海水が凍り、流水が形成されます。網走や紋別では観光船による流水見学が盛んであり、知床半島は流水がもたらす栄養分によって豊かな生態系が保たれていることから世界自然遺産に登録されています。
問2	答え 2 寒冷な海域の特性を活かした昆布の養殖や漁業	利尻島や礼文島は、美しい火山（利尻山）を中心とする景観から利尻礼文サロベツ国立公園に指定されています。この地域では、冷たい海流に育まれた良質な昆布が「利尻昆布」として全国的なブランドとなっており、漁業や養殖業が島にとって欠かせない基幹産業です。近年は、この伝統ある産業を維持するために、若手漁師の育成などの後継者支援も積極的に行われています。
問3	答え 1 明治時代には流域の大部分を占めていた湿地が、開発とともに減少し、農地や市街地へと変化した	石狩川流域の変遷を見ると、明治時代（19世紀末）には非常に広い面積を占めていた湿地が、昭和から平成へと時代が進むにつれて大幅に減少していることがわかります。この変化は、北海道の開拓に伴って湿地の排水・土地改良が進められた結果であり、湿地だった場所は食料供給を支える農地や、札幌市などの都市を支える市街地へと転換されてきました。
問4	答え 3 冬の北西の季節風が山地で遮られるため、日本海側よりも冬の降水（降雪）量が少ない。	北海道の日本海側は冬の季節風の影響で雪が多くなりますが、内陸部は山地によってその湿った空気が遮られるため、雪や雨の量が抑えられます。一方で、内陸部は地表の熱が逃げやすい盆地構造を持つ場所が多く、冬の寒冷な気候は沿岸部よりもいっそう厳しくなるという対照的な特徴を持っています。
問5	答え 2 海の影響を受けにくいため、夏と冬の気温差（年較差）が非常に大きく、冬の月平均気温は氷点下になる。	海には温度を一定に保つ働きがありますが、北海道の内陸部は海から遠ざかっているため、その恩恵を十分に受けられません。結果として、夏は暑く冬は厳しい寒さとなり、年平均気温が低い北海道の中でも特に冬の寒冷さが際立つ傾向にあります。台風の影響や多雨な気候は、この地域の主な特徴とは言えません。
問6	答え 1 北海道	我が国で最も広い面積を持つこの地域では、その広大な平野を活用して、1戸あたりの経営規模が大きい大規模な農業が行われています。特に水稻の作付面積は全国的にも非常に大きく、石狩平野などを中心に生産が盛んです。
問7	答え 4 特定の作物を続けて作ることで発生する連作障害を防ぎ、土壌の栄養分を維持するため。	同じ土地で毎年同じ作物を栽培し続けると、土壌の養分が偏ったり、病害虫が発生しやすくなったりする「連作障害」が起こります。十勝平野では、ジャガイモ、てんさい、豆類、小麦などの異なる作物を順番に植え替える「輪作」を行うことで、土壌の肥沃さを保ち、安定した収穫量を確保する工夫がなされています。
問8	答え 2 西側に石狩平野、東側に十勝平野	北海道の中央部にある大雪山系などの山地を境にして、西側（日本海側）には石狩川の下流に広がる石狩平野があり、東側（太平洋側）には大規模な畑作が行われている十勝平野が位置しています。
問9	答え 4 千島海流（親潮）	北海道の東側の太平洋岸には、北の千島列島方面から冷たい海水が流れてくる寒流の千島海流（親潮）が通っています。夏の湿った空気がこの冷たい海面によって冷やされることで水蒸気が凝結し、大規模な濃霧が発生します。これにより、釧路などの地域では夏の日照時間が短くなります。
問10	答え 3 知床半島では、流水がもたらす栄養分を基点とした海と陸の食物連鎖が見られ、ヒグマや希少な猛禽類などの野生動物が保護されている。	知床半島は、2005年に世界自然遺産に登録されました。この地域は、冬に接岸する流水がもたらすプランクトンを土台に、魚類、それを食べる海獣や鳥類、さらに陸上のヒグマへとつながる豊かな生態系が、高い密度で維持されている点が評価されています。東側には北方領土の一つである国後島が隣接しています。
問11	答え 3 知床半島	北海道の北東部に位置する知床半島は、流水がもたらすプランクトンを起点とした海と陸の豊かな食物連鎖が評価され、世界自然遺産に登録されました。また、北海道には釧路湿原などラムサール条約（特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約）に登録された湿地が数多く存在します。
問12	答え 4 道路の端（路肩）の位置を高い場所から指し示すことで、地面が雪に覆われた状態でも車道の範囲を知らせる仕組み。	積雪寒冷地における交通の安全を確保するための工夫を問う問題です。地面に設置する通常の反射板や白線だけでは、深い積雪や激しい吹雪（地吹雪）の際に視認できなくなります。固定式の標識を高い位置から吊すように設置することで、雪の影響を受けずに「ここから先は路肩である」という情報を運転者に提供しています。
問13	答え 1 洪水の被害を軽減して水を速やかに海へ流し、泥炭地を排水して農地を拡大するため。	石狩平野のような低湿地では、かつて河川が激しく蛇行していたため、大雨のたびに氾濫による深刻な洪水被害が発生していました。流路を直線化する工事（ショートカット）を行うことで、増水した河川の水を速やかに海へ排出できるようになり、治水機能が向上しました。これにより、もともと水分を多く含んでいた泥炭地の排水が進み、畚畠目状の区画を持つ大規模な稲作地帯などの農地へと転換することが可能になりました。